



## 『あけましておめでとうございます』

うさぎ年です。大人の皆さまも、子どもたちと一緒にうさぎのようにぴょんぴょん跳ねて、明るく元気にいきましょう。ぴょんぴょん跳ねたりスキップすることは、心の病気の治療としても有効だそうです。身体が楽しくなれば、心も連動して楽しくなります。ぴょんと跳ねて、本年もどうぞよろしく願いいたします。

## 『卒園児との再会』

その電話はある日の夕方、突然かかってきました。横文字の会社の名前を名乗り、卒園児の和真君だと言い、さらに保育園のペンキをボランティアで塗らせてほしいと言うのでした。日中、園事務所には怪しい営業の電話がたくさんかかってきます。その為「和真君の名前を語る偽物かもしれない」と思った私は、警戒指数を上げたうえで「まずは一度お会いし、なぜボランティアで保育園のペンキを塗りたいのかお話を聞かせてください」と答え、会うことになりました。

約束の日時にやってきたのは、約20年前に卒園した本物の和真君でした。「どうして、保育園のペンキを塗ってくれるの?」「塗装屋で頑張ってきて、この度独立することになったからその記念です」「本当にお金払わなくて良いの?」「本当に良いです」「そんな気持ちになったのはなぜ?」「僕も子どもが4人いて、これから頑張っていけないといけないから…」など現在の状況と気持ちを話してくれました。子どもが4人いることにも驚き、キックボクシングをやっているということには当時から動くことが好きだったので納得し、お言葉に甘えて園のペンキを塗りなおしてもらうことになりました。

作業は土曜日に行いました。和真君の元同僚の方もボランティアで来てくれました。ペンキを塗ってくれる和真君と、立ち会いながら思い出話をしました。私は直接の担任ではなかったのですが、1学年下のクラスを受け持っていたので、一緒に散歩に行ったり合宿の引率をしたり、当時関わる事が多くありました。思い出話の中で、浩樹君の話が出ました。浩樹君は和真君の同級生で、突然の病に14歳で早世してしまったのでした。「この前、浩樹の家に行ってお母さんに会ってきたんだ」私は27歳の和真君が、保育園時代の友達やそのお母さんのことを忘れず、未だ交流を持っていることが大変うれしく、このように立派にたくましく優しく育ってくれたことがありがたくてありがたくて。保育の仕事が続けてきて良かったと思いました。保育園での虐待報道が続いておりますが、子どもたちを育むという仕事は、素敵な仕事なのです。悲しい残念なことばかりではありません。

人生には出会いがあり、心を動かす体験があります。今年も新田保育園では出会いと体験を大切に保育実践してまいります。ちなみに、ことりぐみのベランダで飼育している亀の1匹は浩樹君にもらった亀です。「浩樹は死んじゃったけど亀は生きている」と言うと「そうなんだ!」と嬉しそうな和真君。和真君の塗装屋さんも、うさぎのようにぴょんと飛躍し、保育園業界は念願の保育士配置基準の改善がぴょんと施行される令和5年になりますように。

●クラスの連絡会はズーム開催です

